

# サポーター講座の展開工夫事例と 企業・職域団体等における認知症サポーターの活動事例 表彰団体一覧

部門	応募者
「サポーター講座の展開工夫事例」 〈一般住民向け〉  (優秀賞)	松戸市小金地域包括支援センター (千葉県松戸市)  ◆“オレンジ協力員”が企画に参加、第2ステップの活動に直結する講座の展開  選考理由: キャラバン・メイトとともにオレンジ協力員(認知症サポーターの有志で地域包括支援センター等とともに実践活動を行う)が認知症サポーター養成講座に参画している。 認知症の基本については標準教材に沿った、わかりやすく丁寧なスライド資料を作成し基礎知識の定着を図ったうえで、具体例を通して対応の仕方を伝える。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来の寸劇からオレンジ協力員の作成・実演による人形劇を実施。 サポーターが登録し「オレンジ声かけ隊」「オレンジ協力員」として活動する仕組みが活発に稼働しており、活動希望のある住民受講者の参加意欲をくみ取り実践に結びつける有機的な体系になっている。
「サポーター講座の展開工夫事例」 〈一般住民向け〉  (優秀賞)	福田南地域包括支援センター (神奈川県大和市)  ◆誰もが身近なこととして認知症をとらえ行動できる工夫が充実  選考理由: 認知症を正しく知ることをきっかけに、認知症を我がこととして認識することから、できる範囲の活動をポジティブに実践することにつながるアイデアが満ちた講座である。 2時間をかけ、基礎知識の講義の後に、認知症の当事者の人や家族の気持ち、すでにサポーターとして活躍している人の活動紹介、参考図書の紹介等を朗読劇、寸劇、紙芝居等も駆使して、集中力の途切れない工夫を凝らしながら伝え、多角的に生の情報を吸収できる充実した構成となっている。 基本を踏まえた上で、常にキャラバン・メイトが最新情報を収集し、受講者や地域に適した講座内容を模索している姿勢は高く評価される。
「サポーター講座の展開工夫事例」 〈学校向け〉  (優秀賞)	鱒ヶ沢町地域包括支援センター (青森県鱒ヶ沢町)  ◆オリジナルカルタで楽しみながら知識が身につく参加・交流型講座  選考理由: 小学生副読本の内容に沿った15枚のカルタを作成。カルタを用いたわかりやすくユニークなパワーポイントを使用して講義を行っている。 カルタは「認知症の原因」「中核症状」「認知症サポーター」等の分野に分類され、楽しみながら認知症を理解できるように考案されており、最後にカルタ大会を行い印象に残る講座となっている。 複数のキャラバン・メイトがチームで学校へ赴き、講義や実演等を通し小学生と交流し理解度を把握しながら講座を行っている点も評価に値する。

「サポーター講座の展開工夫事例」  
〈学校向け〉

(優秀賞)

桐生市地域包括支援センター山育会  
(群馬県桐生市)

◆当事者が自らの言葉で発信することでサポーター講座に協力

選考理由 認知症の基本的理解とあわせて、3 人の認知症高齢者がキャラバン・メイトのインタビューにより、当事者としての気持ち等を語る場を設けており、小学生が認知症を身近なこととしてとらえる貴重な機会となっている。

同時に当事者の人たちがキャラバン・メイトに協力してサポーター養成に尽力することを通し、社会的活動を継続していく意義は大きい。

「サポーター講座の展開工夫事例」  
〈学校向け〉

(優秀賞)

四條畷第 3 地域包括支援センター  
(大阪府四條畷市)

◆小学校低学年の目線で語りかけるサポーター養成講座

選考理由 教員との事前打ち合わせにより、恐怖心に配慮した表現や親しみやすい説明であるかを一語一句まで検討し、綿密な準備を行っている。

小学校 3 年生の児童が認知症の基本、周囲の理解により暮らしやすいまちをつくっていけることまで、興味を引くクイズも盛り込んだわかりやすいパワーポイントを活用して伝えており、参考となるものである。

「サポーター講座の展開工夫事例」  
〈学校向け〉

(優秀賞)

小豆島町地域包括支援センター  
(香川県小豆島町)

◆町の即戦力“活動するキッズサポーター”の誕生

選考理由 認知症の知識だけでなく、高齢者の特性や高齢者福祉等まで丁寧に伝える 45 分×2 回のカリキュラムを組んでいる。

さらにコロナ禍でそれまで実施していた施設見学等ができなかった分の授業をステップアップ講座とし、町の「生活支援体制整備事業」「小豆島町こまめ事業」のこまめ隊養成と銘打って、自分が認知症の人にできることを考え発表する学習の場を設けている。受講した小学生の発表内容からは、認知症の特性を理解したうえで日常生活でできることを各々が考えており、立派に“活動するキッズサポーター”が養成されていることが伺える。

「サポーター講座の展開工夫事例」  
〈学校向け〉

(優秀賞)

御船町役場 福祉課 地域包括支援センター  
(熊本県御船町)

◆小中学生から家族、地域まで認知症の正しい理解を伝える

選考理由 認知症の基礎知識を独自のパワーポイントを活用し、丁寧な解説を行っている。

平成 20 年度から 12 年間継続して小学校でのサポーター講座を実施しており(中学校はステップアップ講座として実施)、小中学生の知識の定着を図るための試行錯誤により、キャラバン・メイトが内容を作り上げてきた様子が伝わる。

市の担当課と学校が情報共有を通し連携する仕組みも確立されており、さらには家庭内で子どもから家族に学習内容が伝わる基盤がつけられている。

「サポーター講座の展開工夫事例」  
〈学校向け〉

(優秀賞)

大分県立大分南高等学校福祉科  
(大分県大分市)

◆高校生メイトが活躍、小中高校が連携して地域を支える

選考理由 例年高校1年次でサポーター講座を受講していた高校において、令和元年度からは2年次で希望者がメイト研修を受講し(県のメイト研修に参加)、2年間で35人のメイトが誕生した。地域包括支援センターと連携しながら小学校、中学校にチームで出向き講座を行っている。

パワーポイントでの講義に加え、寸劇やカラーボールを使った記憶の壺の説明、祖父母とできる体操など身近に学べる工夫をするなど、高校生メイトならではのアイデアを生かしている。小中学生とも交流をもち、若い世代から地域を支える取り組みを実践している。

「企業・職域団体等における認知症サポーターの活動事例」

(優秀賞)

株式会社イトーヨーカ堂

◆コロナ禍においても地域との連携を前進させる

選考理由: 感染症対策の徹底を図りながら従業員のサポーター養成を継続し、累計の認知症サポーターが令和2年度中に1万人を超えるに至った。

地域のメイトを招き顧客と従業員合同のサポーター講座も開催し、これを契機に地域包括支援センターとの連携を図っている。関係機関等と地域の実情に応じた連携方法を探り、着実に協力関係を構築しており、地域に根差した小売業のトップを行く取り組みとなっている。

「企業・職域団体等における認知症サポーターの活動事例」

(優秀賞)

住友生命保険相互会社  
営業教育部 営業教育室

◆全国の拠点に認知症サポーターを配置し顧客対応に知識を生かす

選考理由: 営業職員を中心に累積で31,195人の職員をサポーターとして養成されている(全職員 42,954)。

認知症サポーターとなった職員がオレンジリングを身につけて業務にあたる中で啓発に役立てたり、できる範囲で顧客へのアドバイスに知識を生かしたりする等の実践活動を継続して行っている。

## 選考評価のチェックポイント

### ●「サポーター講座の展開工夫事例」

①認知症の基礎知識の内容（標準教材に沿った内容）がしっかり押さえられているか。  
[基本]

②講座の組み立て方に工夫があるか。[工夫]

（受講者を飽きさせない、対象者に応じて興味をもてるように 等）

③認知症の症状や対応のポイントについて、わかりやすく伝えているか、誤解を招く表現などがないか。

認知症の人の行動で笑いをとるような表現はないか。[表現]

④認知症について暗いイメージ、悲惨さを伴う表現に偏っていないか。[悲惨さへの偏り]

### ●「企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例」

①自治体等地域の関係機関との連携が図れているか。[連携]

②業務の特徴に応じた工夫がなされているか。[工夫]

③活動地域で受け入れられ、評価されるべき活動実績があるか。[活動実績]

④業務の特徴に応じた工夫がなされているか。[業務の特性]

# 令和2年度 認知症サポーター優良事例・キッズサポーターによる作品 選考委員会

## 選考委員

50音順

委員長	大森 彌	(東京大学名誉教授)
委員	江利川 毅	(公益財団法人医療科学研究所理事長)
委員	亀井 利克	(三重県名張市市長)
委員	鳥海 房枝	(特定非営利活動法人メイアイヘルプユー 事務局長)
委員	玉井 顯	(敦賀温泉病院理事長・院長)
委員	森 貞述	(前愛知県高浜市市長)
委員	山口 晴保	(群馬大学名誉教授)
委員	菅原 弘子	(全国キャラバン・メイト連絡協議会 ／NPO 法人地域共生政策自治体連携機構事務局長)